



当行の沿革

2025年9月16日、愛媛銀行は創業110周年を迎えます。当行は1915年（大正4年）の創業以来、時代の変化に柔軟に対応しながら、地域の皆さまとともに歩んでまいりました。この節目にあたり、本稿ではこれまでの歩みを振り返ります。

1915年（大正4年）創業 – 無尽業からの出発

愛媛銀行のルーツは、1915年に設立された「東豫無尽蓄積株式会社」です。当時、地域の人々が資金を融通し合う仕組みとして無尽業が広く活用されており、当行もこの仕組みを通じて地域の金融ニーズに応えてきました。その後、地域の金融ニーズの高まりを受け、無尽業の枠を超えた金融機関の発展が求められるようになりました。



東豫無尽蓄積株式会社（撮影年不詳）

1943年（昭和18年）– 愛媛無尽株式会社の設立

戦時中の金融統制により、県内の無尽会社5社が合併し、「愛媛無尽株式会社」が誕生しました。戦後の復興期には、地域経済の再建を支える役割を果たし、個人・企業向けの金融サービスを拡充していきました。

1951年（昭和26年）– 相互銀行へ転換

相互銀行法の施行に伴い、「株式会社愛媛相互銀行」へ商号を変更しました。これにより、預金・貸出業務が拡充され、地域金融機関としての機能が強化されました。高度経済成長期には、中小企業の成長支援や住宅ローンの拡充を進め、地域経済の発展を支える重要な役割を担いました。



松山市勝山町に本店社屋（現社屋）を新築移転（1960年）

1989年（平成元年）－普通銀行へ転換、株式会社愛媛銀行の誕生

金融制度の変革を受け、普通銀行へ転換し、「株式会社愛媛銀行」として新たなスタートを切りました。これにより、法人向け融資、資産運用、外貨預金などの多様な金融商品・サービスの提供が可能となり、地域により密着した総合金融機関へと発展しました。

2000年代－地域活性化と新サービスの展開

2000年代に入ると、金融業界は大きな変革を迎えました。当行もインターネットバンキングの導入やキャッシュレス決済の普及推進など、デジタル化に対応した金融サービスの提供を強化しました。また、地域活性化の観点から、各種ファンドを活用した地元企業の成長支援や地方創生プロジェクトにも積極的に取り組みました。



創業100周年記念碑（2015年）



創業100周年を記念して建て替えた久米支店（2015年）
－地域活性化の一環として、久万高原町産のスギやヒノキを活用

2020年代－デジタル化とサステナビリティへの対応

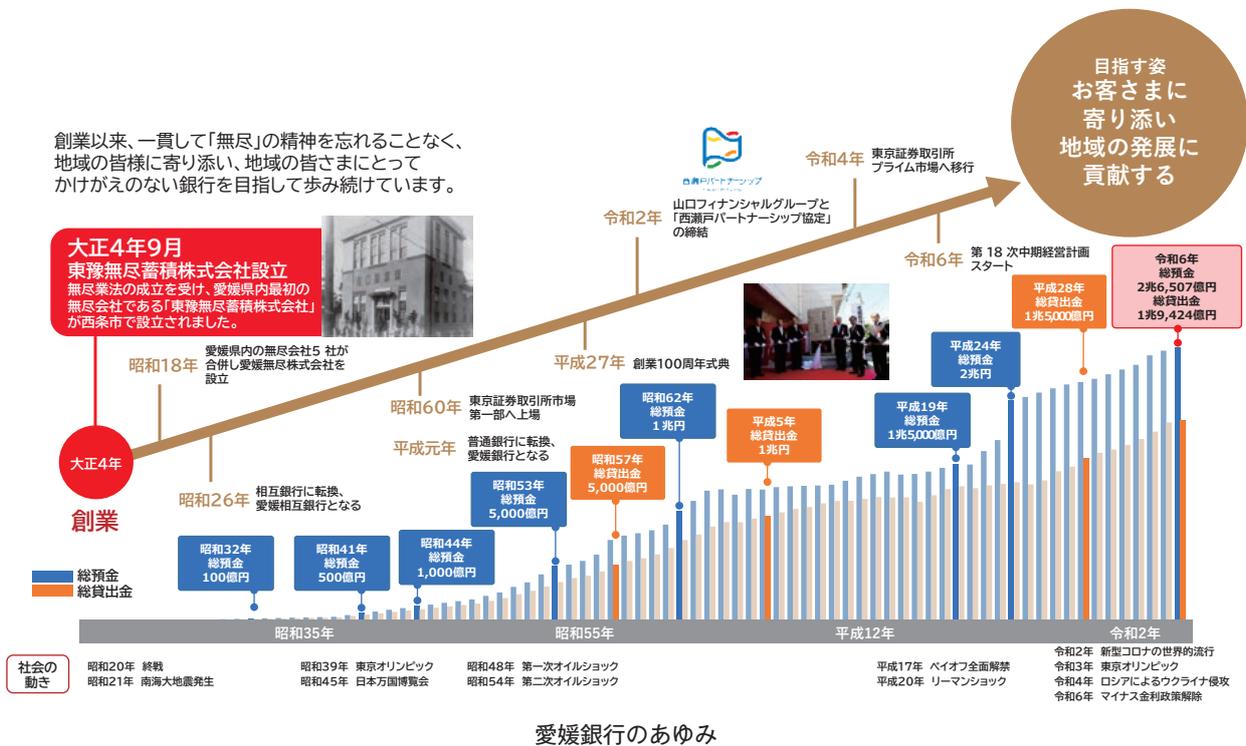
近年、金融業界ではデジタル化が急速に進展しています。当行もオンラインサービスの強化やスマートフォンアプリの機能拡充、AIを活用した金融相談サービスの提供などを進めるとともに、フィンテック企業との連携を深め、利便性の高い金融サービスの提供を目指しています。また、ESG（環境・社会・ガバナンス）経営の推進により、地域社会の持続可能な発展を支援する取組みを強化しています。サステナブルファイナンスの提供や、地域の脱炭素化支援にも積極的に取り組んでいます。



ZEB認証を取得し、環境に配慮した店舗へと生まれ変わった西条支店（2023年）
－創業の地である西条市に環境配慮型店舗を建設

2025年（令和7年）－創業110周年と新たな挑戦

創業110周年を迎えた当行は、地域経済のさらなる発展に向け、新たな戦略を展開しています。その一環として、金融機関の枠を超えた広域連携の強化にも取り組んでいます。例えば、西瀬戸地域の経済活性化を目的としたパートナーシップ協定を締結し、地域社会の課題解決、スタートアップ支援、地域企業の成長支援など、多面的な連携を進めています。また、地域商社を活用した公民連携の取組みも推進し、地方の魅力ある製品の流通支援、販路拡大、地域資源を活かした新規ビジネスの創出にも取り組んでいます。第18次中期経営計画「変革への挑戦 3rd stage」のもと、これからもお客さまに寄り添い、地域の発展に貢献してまいります。



愛媛銀行は、これからも「地域とともに歩む銀行」として、新たな価値創造に挑戦し、地域の皆さまとともに、新たな未来を創造してまいります。